● 授業科目の内容紹介

国語国文専攻

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
日本文学論	**4**		**国**	**1**	**尾崎富義**

Ⅰ　主題
日本文学の研究における民俗学的研究方法の可能性と理解を主題とする。

Ⅱ　授業の到達目標
1.折口学の理解をとおして、古代文学がいかに発生したかについて考える糸口となる。
2.折口学について学び、文学研究の民俗学的研究方法の可能性について考察できる。
3.日本民俗学の知識を利用して、見過ごしがちな日常生活上の信仰や習慣の理解に応用できる。

Ⅲ　授業の概要
主として演習を中心にしながら講義で補足説明をする。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1～2　「折口学」の解題	・折口学の特徴、文学の民俗学的方法について
3～5　「妣が国へ・常世へ」(常世論1)	・常世観の成立、異郷意識の展開とマレビト。
6～10「古代生活の研究」(常世論2)	・常世の意義、祖先神の来訪、根の国の観念。
11～15「若水の話」	・日本古代の霊魂観、沖縄の若返りの水、若水を汲む民俗。
16～20「最古日本の女性生活の根柢」	・神を祀る女、名と結婚の民俗。忌籠りの民俗。
21～25「髭籠の話」	・ヒゲゴの意味、よりしろとおぎしろ、カミ迎えの信仰
26～30「水の女」	・聖水を司る女、ウブユとミソギの意義、タナバタツメと天の羽衣。

Ⅴ　使用テキスト・教材等
古代研究〈1〉祭りの発生　（中公クラシックス）　9784121600363

Ⅵ　参考書・参考資料
折口信夫事典　西村亨編　大修館書店

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（　）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　）
配点比率(%)　合計 100		60	20	20	
折口用語の理解		○	○	○	
折口学説の理解		○	○	○	
日本古代の信仰と呪術		○	○	○	
文学の民俗学的方法		○	○	○	
沖縄地方の民俗		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
各自、事前にテキストを十分に読んでおくこと。『折口信夫事典』等を参考に、折口用語の意味、担当部分の要約等をプリント資料として発表する。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
積極的な発言を求める。授業に関係のない私語は慎むこと。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
国語表現論	**2**		**国**	**1**	**中村国男**

Ⅰ 主題

現代における日本語表現の優れた代表的な作家として遠藤周作の随想や小説を鑑賞し、その奥深い魅力を理解する。遠藤周作の作家としてのテーマを一言で言えば「無償の愛の追求」と言えるが、その表現のされ方は、純文学、大衆文学、ユーモラスなエッセイなど、多彩である。それを学ぶことによって、おびただしい種類の器のような豊かな国語表現の世界が確認できる。

Ⅱ 授業の到達目標

1.作品を読んで作家の問題認識に興味関心を持つことができる。(対象への関心の深化)
2.発表する新聞雑誌や、想定される読者に応じた作家の工夫が理解できる。(対象への理解の深化)
3.国語表現の多様さに関する自分の見解を表現できる。(自分の考えを実証する力)

Ⅲ 授業の概要

最初から7回まではプリント資料を用いて随想や初期の芥川賞受賞作品の学習をする。8回目からは購入したテキストを用いて学習するので、各自でテキストを読破しておくこと。その際、作者がストーリーをどのように設定し、登場人物をどのように特徴づけて描写しているかなど、表現の観点に注目して読むこと。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1. 軽妙な随想	狐狸庵シリーズから、まずは「古今百馬鹿」で入門
2. 真摯な随想	一転して真面目な人生論、恋愛論を読む
3. 東西文化論	東西の歴史や宗教に関する論を読む
4. 「白い人」1	1章
5. 「白い人」2	2章・3章・4章
6. 「白い人」3	5章・6章・7章
7. 「白い人」4	8章・9章
8. 「私が・棄てた・女」1	1章
9. 「私が・棄てた・女」2	2章・3章
10. 「私が・棄てた・女」3	4章・5章
11. 「私が・棄てた・女」4	6章・7章
12. 「私が・棄てた・女」5	8章・9章
13. 「私が・棄てた・女」6	10章・11章
14. 「私が・棄てた・女」7	12章
15. まとめ	

Ⅴ 使用テキスト・教材等

私が・棄てた・女　遠藤周作　講談社文庫　2012　9784062773027
上記以外はプリントを使用する

Ⅵ 参考書・参考資料

授業中に適宜指示する。また、自身で探し出す努力を期待する。

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験(レポート)	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他( )
配点比率(%)　合計 100	40	30		30	
対象への関心の深化	○	○		○	
対象への理解の深化	○	○			
自分の考えを実証する力	○	○			

Ⅷ 授業時間外の学習(予習・復習等)

初回に指示した作品をできるだけ早く読破しておくこと。

Ⅸ その他(履修上の注意、前提条件等)

自分の意見を積極的に言えるようにすること。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
国文学演習Ⅰ		〔2〕	**国**	**1**	**尾崎富義**

Ⅰ　主題

『万葉集』一巻を読む。ウタとは何か。古代和歌の表現様式、万葉のことばの意味などを学ぶことによって、『万葉集』の理解を深めることを主題とする。

Ⅱ　授業の到達目標

1.『万葉集』を読むことによって、ウタとは何か、古代和歌の表現様式について理解することができる。
2.万葉の歌を理解することによって、奈良時代の人々の生活や信仰まで考察できるようになる。
3.和歌の知識を利用して、平安朝の勅撰和歌集など国文学史の学習に応用できる。

Ⅲ　授業の概要

演習形式で行う。

Ⅳ　授業計画と内容

項目	内容
1～4.　『万葉集』の解題	『万葉集』の成立・名義・時代区分・編者等『万葉集』に関する基礎的知識を学習する。
5～9.　「近江荒都歌」	近江大津宮と壬申の乱、荒都をうたう意味、人麻呂歌の特徴。
10～12.「吉野讃歌」	吉野の歴史と信仰、持統天皇の吉野行幸、山川対比の讃歌。
13～15.「伊勢行幸歌」	伊勢神宮の祭祀と伊勢行幸の背景、留守歌の系譜。
16～18.「阿騎野遊猟歌」	阿騎野の風土、王権と狩猟、コモリの古代的意義。
19～22. 藤原の宮関係歌」	藤原宮の造営と遷都の歴史的背景、宮都讃歌の特徴。
23～24.「紀伊国行幸関係歌」	紀伊国行幸の意味、歌枕について。
25.　「参河国行幸歌」	「引馬野」はどこか、高市黒人の歌の特徴。
26～28.「長皇子の歌」	羈旅歌について、長皇子の歌の特徴。
29～30.「遣唐使関係歌」	遣唐使の歴史、遣唐使歌の特徴。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

『万葉集　全注釈』一（講談社文庫）	中西進	講談社	9784061313828
『万葉集を知る事典』	桜井満監修	東京堂	9784490105421

Ⅵ　参考書・参考資料

『万葉集注釈』(1)	沢瀉久孝	
『万葉集全注1』	伊藤博	
『万葉集の歌と民俗諸相』	尾崎　富義	おうふう

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 ／ 学習項目	試験（　　）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　　）
配点比率(%)　　合計 100		60	20	20	
万葉集に関する基礎知識		○	○	○	
万葉時代の歴史と社会		○	○	○	
相聞歌の表現と様式に関する理解		○	○	○	
万葉の歌ことばの理解		○	○	○	
柿本人麻呂作品の理解		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

レポーターは、事前に必ず発表資料を配布する。学生は当日の授業で行うテキスト範囲と発表資料に必ず目を通し、不明の点については、以下に示す参考文献に当たり学習をしておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

・積極的に発言をすること。
・授業に関係のない私語は慎むこと。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
言語学演習		〔2〕	**国**	**1**	**澤崎宏一**

Ⅰ　主題

この授業では、日本語と他の言語との関係を学ぶ。また、日常生活ではあまり意識することのない日本語のしくみについても学習する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.世界の言語と日本語がどのような関係にあるかがわかるようになる。
2.日本語の文法やしくみについて、問題点を把握できるようになる。
3.日本語を含めたことばのしくみについて、ある程度客観的な見方ができるようになる。

Ⅲ　授業の概要

講義形式ではなく対話型の授業である。様々な資料から、日本語の姿を見つめることを目指す。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	授業ガイダンス	マクロ・ミクロ的視点についての話
2-5.	日本語と世界の言語	語族の視点から見た日本語の系統
6-8.	日本の中の言語	アイヌ語や日本語の方言について
9-10.	日本と世界の文字	漢字文化圏の文字の発達と非漢字文字
11-12.	日本の言語政策	ローマ字化運動、当用・常用漢字など
13-15.	世界の日本語教育	日本語教育の諸問題や第二言語習得論
16-18.	日本語の母音と子音	日本語の母音と子音の特徴、連濁
19-21.	日本語の韻律	モーラ、音節、アクセントなど
22-23.	日本語の動詞の種類	ル動詞・ウ動詞、自他動詞
24-26.	日本語の様々な構文	受け身文、使役文、受益構文など
27-28.	日本語の主語と主題	「は」と「が」と「の」の話
29-30.	日本語の敬意表現	敬語の種類と使い方、ら抜き言葉など

Ⅴ　使用テキスト・教材等

ハンドアウト、視聴覚教材を必要に応じて使用する

Ⅵ　参考書・参考資料

やさしい日本語のしくみ　　庵功雄・日高水穂・前田直子・山田俊弘・大和シゲミ　　くろしお出版　　2003

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（筆記試験）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	30	30		40	
約 2 単元に 1 度の確認テスト		○		○	
日本語の系統やしくみの総合理解	○			○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

年間 6 回前後、それまでの授業の確認テストを行うので、学習事項の復習を欠かさないこと。
予習事項が指定されている場合は、授業中に配られるハンドアウトに目を通しておくこと。
参考書は，購入してもしなくても構わない。読んでおくと，授業理解の助けになる。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業を聞くだけでなく、教師からの問いかけに対して積極的に発言することが望まれる。
前期に約 3 回，後期に約 3 回のクイズ（小テスト）を行う。クイズの日取りは，授業の進捗に合わせて決められるので，欠席を重ねないように注意すること。詳細は授業の中でアナウンスする。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
国文学講読Ⅰ		**4**	**国**	**1・2**	**瀬戸宏太**

Ⅰ　主題

源氏物語と現代。源氏物語の普遍的な魅力に思いを致していくことを目標とする。

Ⅱ　授業の到達目標

1.作品世界に問題意識を持って向かい合うことができる。（対象への関心の深化）
2.文学研究の課題として HTML や CSS を理解できる。（対象の研究方法に習熟）
3.積極的に議論を繰り返して、サイトの作成・運営ができる。（コミュニケーション力）

Ⅲ　授業の概要

インターネットを介して源氏物語に関する情報を公開する Web サイトを運営していく。外部に向けて責任を持った情報公開を試みるのだから、リアルタイムで新たな知識技能を身につけ、様々な状況に対応していくことが求められる。

Ⅳ　授業計画と内容

講義科目ではあるが、演習的な要素も取り込んだ授業となる。
講義は作業に平行して随時行い、以下のような内容を扱う。
（作業状況により、順番は前後する可能性がある）

項　目	内　容
1- 2. HTML の書き方	文章の構造化と主要な要素・属性。
3- 4. リンクのマナー	サイト運営をめぐるネチケットについて。
5- 6. サイトのデザイン	スタイルシートの考え方と導入法。
7-15. 源氏物語の人間関係	源氏物語の全体像の再確認。
16. 源氏物語研究の諸問題	源氏物語の解釈をめぐる現在の水準。
17-18. 源氏物語関連サイトの傾向	人気のサイトと消えたサイトの対比から。
19-25. ネットの内外の源氏物語	源氏ブームを支える様々なアプローチ。
26-28. 個人情報の扱い	ネットをめぐる危険回避のための最低条件。
29-30. 源氏物語と現代	まとめ。レポート提出に向けて

Ⅴ　使用テキスト・教材等

源氏物語　　角川ソフィア文庫　　9784043574056
他に HTML ファイルで資料を配布する。

Ⅵ　参考書・参考資料

新編日本古典文学全集　　小学館
新日本古典文学大系　　岩波書店
新潮日本古典文学集成　　新潮社

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（レポート）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	30		40	30	
文学への関心の深化	○		○	○	
文学研究の方法に習熟	○		○		
コミュニケーション力			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

授業と平行してで構わないので、一年間のうちに源氏物語を通読することを期待する。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

Web サイトの構築にあたり、ブログや簡易な作品発表サイトは利用しないことを前提とする。また、動的なサイトを創るためであっても、Flash は原則として採用しない。あくまでも標準的な技術を土台とするので、各自のインターネットスキルがどれほど高いものであっても、それを活かせるとは限らないことは、あらかじめ了承しておいてもらいたい。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
国文学講読Ⅱ		**4**	**国**	**1・2**	**大川信子**

Ⅰ　主題

古典文学とは、時代を経ても常に新たな問いかけを読者に投げかける力を持つものである。この授業では平家物語を取り上げ、の問いかけがなんであるのか。それをどのように私たちは受け止めるのかを考え、古典文学と私たちとの関わりを探る。

Ⅱ　授業の到達目標

1.物語の主題を理解し、部分と全体の両面から読解することができるようになる。
2.1に基づき、古典文学の楽しみ方を学ぶ～古典の音読・暗唱ができる、変体仮名が読めるようになる
3.物語読解の応用としてm史実と物語の関わりを通して、文学の特性を考える力を身につける。

Ⅲ　授業の概要

文学の発生は、個別の事情を持つ。平家物語の成立の一端を『徒然草』に読み取り、語りの性格について考察する。様々な展開を見せる平家物語諸本のなかからもっとも流布した覚一本系統のテキストを選び、日本人にとって共通の古典であった平家物語を読解していく。冒頭「祇園精舎」章段で提示されたテーマが、個々の話群にどのように具現化していくのかを読み取る。また、物語の享受の一形態としての能楽において、平家物語がどのように取り込まれていくのか、一つの話柄が、時代とともにどのような変容を遂げていくかも併せて追う。

Ⅳ　授業計画と内容

項　　目

1.『徒然草』にみる平家物語の成立
2. 平家物語成立―様々な視点より―
3. 琵琶法師について
4.「祇園精舎」の章段
5.「殿上の闇討の事」の章段の写本の翻字の実際
6.「殿上の闇討の事」の章段を写本で読む
7.「殿上の闇討ち」の章段に、平家隆盛の因を読む
8.「殿下の乗合の事」の章段
9. 史実と物語との関わりを考える―「殿下の乗合の事」
10.「鹿の谷の事」－内容読解
11.「鹿の谷の事」－物語の部分と全体を考える―
12. 藤原成親の選択を考える―物語の主題との関わり―
13. 藤原実定の選択を考える－厳島神社の意義―
14. 平家と厳島―「大塔建立の事」
15. 前期まとめ
16. 鬼界が島の流人たち
17. 平康頼の物語－「卒塔婆流しの事」
18. 俊寛の物語―「足摺の事」
19. 能「俊寛」の世界
20. 重盛の死
21. 清盛の悪行
22. 清盛と後白河院
23. 源頼政の物語Ⅰ －その挙兵に至る物語－
24. 源頼政の物語Ⅱ－「宇治川の事」を中心に-
25. 能「頼政」の世界
26. 能「頼政」を考える
27. 頼朝と文覚の物語Ⅰ
28. 頼朝と文覚の物語Ⅱ
29. 入道逝去の章段
30.「経の島の事」「祇園女御の事」　まとめ
後期試験

なお、授業の進捗状況に合わせて6回、内容理解にかかわるレポートを課す

Ⅴ　使用テキスト・教材等

平家物語　上　　佐藤謙三校注　　角川ソフィア文庫
仮名変体集　　伊地知鉄男　　新典社

Ⅵ　参考書・参考資料

平家物語全注釈　　富倉徳次郎　　角川書店
新編日本古典文学全集　平家物語　　小学館

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（筆記試験）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	50	30	10	10	
物語の主題・構造を理解できる	○	○			
音読と写本翻刻の実践			○	○	
物語読解の応用	○	○			

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

授業時に扱う章段を音読し、文章の持つリズムを体感すること。
写本の翻字ノートを作成すること。
辞典類を用い、必要事項の確認を心がけること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

私語を慎み、積極的に発言するなどすること

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
国語学講読		**4**	**国**	**1・2**	**久島茂**

Ⅰ　主題
現代につながる近代の日本語の基礎的な知識を身につける。

Ⅱ　授業の到達目標
1.近代の文語文を理解する。
2.近代の仮名を読む。
3.中世末期の口語を理解する。

Ⅲ　授業の概要
戦前まで、旧仮名遣いや変体仮名で書かれた文語文は普通に使われていた。現代につながる知識として身につける。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容	項　目	内　容
1 候文とは①	昭和の通知文	16 同	渡辺温訳「犬と牛肉の話」「風と日輪の話」
2 候文とは②	明治の広告文	17 江戸末期の文語文「伊曽保物語」	「蟻と蝉の話」
3 候文とは③	明治の法令	18 同	「狐とオオカミの話」
4 大正の文語文	大震災の告諭文	19 江戸初期の文語文「伊曽保物語」	「蟻と蝉との事」
5 明治の文語文①	小学読本	20 同	「狼と狐との事」
6 明治の文語文②	小学生用読み物	21 宣教師の日本語研究	中世末期の口語
7 明治の文語文③	小学生用道徳	22 中世末期のローマ字の読み方	現代のローマ字との違い
8 明治の口語文	グリム童話	23 中世末期の口語文「伊曽保物語」	ローマ字文「蝉と蟻との事」
9 明治の変体仮名の読み方	代表的な字体	24 同	ローマ字文「狼と狐の事」
10 明治の文語文「遠野物語」	序文	25 同	ローマ字文「犬が肉をふくんだ事」
11 同	8話、9話	26 同	ローマ字文「百姓とこどもの事」
12 同	10話、11話	27 樋口一葉の文語文	日記
13 同	22話	28 同	自筆日記の仮名字体
14 明治の文語文「伊曽保物語」	福沢諭吉訳「蟻といなごの事」	29 永井荷風の文語文	日記「関東大震災」
15 同	渡辺温訳「蟻ときりぎりすの話」	30 同	日記「東京大空襲、終戦」

Ⅴ　使用テキスト・教材等
プリント配布

Ⅵ　参考書・参考資料
授業時に指示

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（筆記試験）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	70	20		10	
文語の理解	○	○		○	
仮名文字の理解	○	○		○	
中世末期口語の理解	○	○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
復習を十分すること

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
授業で疑問があれば質問すること

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
日本古典芸能論		**4**	**国**	**1・2**	**平井修成**

Ⅰ　主題

忠臣蔵は、日本と日本人を語る上での大きなキーワードとなっている。歌舞伎・文楽を中心に、日本文化の中の忠臣蔵を多方面から考え、理解し、これを通じ「日本」を語ることができるようになることを目標とする。

Ⅱ　授業の到達目標

1.『仮名手本忠臣蔵』を知る。
2.赤穂事件の史実、その背景、その影響を知る。
3.所謂「忠臣蔵もの」の多彩な展開を知り、日本文化・日本の国民性との関わりを理解する。

Ⅲ　授業の概要

以下のような項目について学習・研究する。

Ⅳ　授業計画と内容

項目	内容
1～5.『仮名手本忠臣蔵』を知る	『仮名手本忠臣蔵』の梗概を知ると共に、重要と思われる場面について、詞章を読むと共に、文楽及び歌舞伎の舞台をビデオ鑑賞する。『仮名手本忠臣蔵』が、単に忠義と仇討ちの物語ではないことを理解して欲しい。
6～7. 史実としての赤穂事件	本当は何があったのかを確認する。
8～10. 近世に於ける赤穂事件の評価	忠臣と称えるものから暴徒として貶すものまで、当時の資料を読む。
11～13. 赤穂事件の思想的背景	赤穂浪士の仇討ちに大きな影響を与えたと思われる山鹿素行の思想を中心に、近世に並立した忠義という概念の多様な姿を知る。
14～17.『仮名手本忠臣蔵』の先行作品	名作『仮名手本忠臣蔵』誕生に至る過程を探る。それは人々が、忠臣蔵の主題をどう創り上げていったかを理解することでもある。
18～20.『仮名手本忠臣蔵』演出の変遷	「花献上」の場は、なぜ上演されなくなったのか。「山崎街道」は、なぜ見取り狂言になるほどに人気が出たのか。『仮名手本忠臣蔵』の進化と変化を辿る。
21～24.『仮名手本忠臣蔵』と『東海道四谷怪談』	裏忠臣蔵、不忠臣蔵とも言うべき主題を持つ『東海道四谷怪談』。この作品が登場した意味を、時代との関わり、『仮名手本忠臣蔵』に与えた影響などを中心に考える。
25～27. 映画化された忠臣蔵	映画というメディア、近代という時代による、忠臣蔵の変質を見る。
28～29. ジャパノロジスト達にとっての忠臣蔵	主に欧米の日本研究者達は、日本人の特質を語る時に、しばしば忠臣蔵を象徴的に扱ってきた。そこに生じた理解と誤解を、これまでの学習を踏まえて評価する。
30.　まとめ	

Ⅴ　使用テキスト・教材等

適宜プリント資料を配付する。

Ⅵ　参考書・参考資料

授業中に適宜指示する。また、自身で探し出す努力を期待する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（筆記試験）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	50		30	20	
『仮名手本忠臣蔵』の理解	○			○	
赤穂事件と背景・影響の理解	○		○	○	
日本文化・国民性と忠臣蔵との関連の理解	○		○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

『仮名手本忠臣蔵』の詞章を読むと共に、何であれ「忠臣蔵」に関する情報に留意し、コピーをとるなどする。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

1～5.『仮名手本忠臣蔵』を知る　は講義形式で、その後は演習形式で行う。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
静岡の文化		**2**	**国**	**1**	**繁原幸子**

Ⅰ　主題

静岡県はそれぞれの地域で様々な文化が伝承され、その地域を特徴付けている。これらの事例を他地域の文化と比較しながら民俗学的考察で読みとくことを学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標

1.静岡各地の民俗文化に対する知識が深まる.
2.様々な民俗文化を知ることで、静岡の文化に対しての理解が深まる。
3.静岡の民俗文化が現在どう生かされているか考察できるようになる。

Ⅲ　授業の概要

フイールドワークによる具体例のパワーポイントやビデオやDVDあるいは実物を見て静岡の文化に対する理解を深める。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1、 オリエンテーション	授業展開と民俗文化の概説
2、 津波などの災害と民俗	静岡の災害がどう伝承されたか考察する。
3、 衣服の民俗	衣服の呪術性を考える。
4、 山間地の雑穀文化	焼畑文化と雑穀の今昔を考察する。
5、 山間地の狩猟文化	今静岡の山間地で何が起きているかを学ぶ。
6、 海の文化(1)	漁師の生活や信仰の今昔を考察する。
7、 海の文化(2)	漁師町の食生活・衣生活を知る。
8、 静岡の年中行事(1)	年中行事の意味とその成り立ちを知る。
9、 静岡の年中行事(2)	静岡と他地域の年中行事を比較する。
10、静岡の年中行事(3)	年中行事の変容と新しく加わった年中行事を考察する。
11、静岡の人生儀礼(1)	結婚と出産・育児の今昔を考察する。
12、静岡の人生儀礼(2)	年祝いと葬式の今昔を考察する。
13、祭り文化(1)	伝統の祭りの変容と問題を考える。
14、祭り文化(2)	各地の祭りと静岡の祭りを比較する。
15、まとめ	今までの授業から静岡の文化を考察する。
定期試験	筆記試験(論述式)

Ⅴ　使用テキスト・教材等

特に定めない。その都度教材プリントを配布する。

Ⅵ　参考書・参考資料

授業時紹介

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験(筆記試験)	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他(　　)
配点比率(%)　合計 100	70	20		10	
静岡の文化に対する基礎知識	○	○		○	
静岡の文化に対する関心の深化	○	○		○	
静岡の文化に対する考察力	○	○			

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

講義に関する新聞記事などをよく読むこと。常に静岡の文化に関心を持ち、注目しておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

日常生活に近い事例が多く示されるので、発言など積極的な参加を求める。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
言語文化論		**4**	**国**	**1・2**	**小野田貴夫**

Ⅰ　主題

言語文化に関する基礎理論の理解からはじめて、実際の言語文化に関する事象を分析できるようになり、そのうちに含まれる現実的な問題を解決する方法を検討する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.言語と文化の関係についての基本的な理論が説明できる。
2.日常の事象を、言語文化論的な視点から、解説できるようになる。
3.日常の問題について、言語文化論的な視点から解決方法を提示する。

Ⅲ　授業の概要

言語文化に関する基礎理論を、それぞれの回で取り上げるテキストにそって解説する。さらに、その理論を使って実際の事象について議論し、そこに潜在する課題の解決方法を検討する。

Ⅳ　授業計画と内容

項目	内容
1- 2.認知と言語の関係について	『認知言語学基礎から最前線へ』について
3- 4.言語と文化の関係について	『ことばと思考』『レキシコンの構築』について
5- 6.言葉の権力について	『話すということ』について
7- 8.言葉と物の歴史性について	『言葉と物』について
9-10.価値体としての言語について	『言語にとって美とはなにか』について
11-12.ディスコースと欲望について	『性の歴史Ⅰ』について
13-14.ゲームとしての言語について	『哲学探究』について
15-16.言葉と階級について	『“教育”の社会学理論』について
17-18.反資本としての言語について	『ピダハン』について
19-20.言葉と配慮について	『ポライトネス』について
21-22.日本語の中の私について	『日本人の〈わたし〉を求めて―比較文化論のすすめ』について
23-24.日本語と物事の感じ方について	『日本語には敬語があって主語がない』について
25-26.言葉と思いやりについて	『ヒトはなぜ協力するのか』について
27-28.言葉の誘導について	『べてるの家の「当事者研究」』について
29-30.まとめ	

Ⅴ　使用テキスト・教材等

資料を配布する

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

学習項目＼成績評価方法	試験(レポート)	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他( )
配点比率(%)　合計 100	75			25	
言語文化に関する基礎理論が説明できる	○			○	
現実の場面が分析できる	○			○	
解決方法が提示できる	○			○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

各回に配布する資料の再読と課題の実施。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
日本文化論		**4**	**国**	**2**	**瀬戸宏太**

Ⅰ　主題

日本の文化を通時的・共時的に把握する。

本講義では、日本の文化の流動性・多様性に目を向け、その本質をどう捉えることが出来るか、そして、そこから自身の生活をどう再評価していくことが可能か、各人なりのスタンスを獲得することを目的とする。いわゆる蘊蓄を競うのではなく、自分の詳しくない分野についても、持っている知見を活用して理解しようとする力を涵養することを目指したい。

Ⅱ　授業の到達目標

1.日本の文化について、他者に向けて正確に情報を発信することが出来る。（対象への理解の深化）
2.日本の文化の価値をみずから納得し、その魅力を要領よく表現することが出来る。（筋道立てて構成する力）
3.他者の属する文化との共通性や差異を手掛りに、相互理解を深められる。（知識を社会の中で応用）

Ⅲ　授業の概要

授業は講義形式で行い、必要に応じてプリント資料を配布する。特定の教科書は用いないが、次の回の授業内容のキーワードは前もって提示するので、ウィキペディア等、インターネットで調べがつく程度のことは了解した上で受講することが望ましい。知識自体が大事なのではなく、それらを踏まえて各自で考察を深めていく道具とするためである。毎回、授業の最後には出欠確認を兼ねて小レポートを課すが、授業で示したアプローチに迎合することは求めない。こちらの考え方を手掛りとして、自分なりに納得のいく理解の仕方をしようとすることで、上記の到達目標を達成してもらいたいと考えている。

Ⅳ　授業計画と内容

項目	内容	
1.	雅と俗	日本の文化を通時的に捉えるために。この授業で用いる術語の解説。
2- 4.	漢字と仮名	文化の始発としての文字。変体仮名の世界。仮名から派生する文化。
5- 7.	香と香道	宗教と文化の関わり。文化の新たな展開の論理。再定義される文化。
8.	歴史と文化	ここまでの整理と今後の展望、及び全体を通した質疑応答。
9-11.	歌と俳諧	文化の担い手を意識する。文化の大衆性と芸術性。再評価される文化。
12-14.	洋才と和魂	黒船という文化。文化をめぐる葛藤。近代と反近代の課題。
15.	通時と共時	日本の文化を通時的に捉えることから共時的に捉えることへ。
16.	風土と伝播	日本の文化を共時的に捉えるために。前期の講義との関連性の解説。
17-19.	西国と文化の渡来	キリスト教伝来。太宰府と太宰府天満宮。天孫降臨再考。
20-22.	中央と文化の熟成	東京の中の江戸を考える。拡大する中央。源氏物語文化圏。
23.	地域という概念	ここまでの整理と今後の展望、及び全体を通した質疑応答。
24-26.	東国と文化の継承	復興の世界観。毛越寺の庭園から。遠野と小岩井農場。
27-29.	世界と文化の展開	カワイイの世界進出。Arthur Waley の衝撃。美術品と食文化。
30.	まとめ	レポートの書き方の要点、及び全体を通した質疑応答。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

適宜プリントを用意する。

Ⅵ　参考書・参考資料

授業の進行に従って、適宜紹介する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 ／ 学習項目	試験（レポート）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	50	25		25	
対象への理解の深化	○	○		○	
筋道立てて構成する力	○				
知識を社会の中で応用		○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

定期試験は、事前にルーブリックを提供し、1,500 字程度のレポートを課す。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
日本民俗文化論		**4**	**国**	**2**	**吉川祐子**

Ⅰ　主題

日本の民俗文化の本質をとらえ、日本人を知る。

Ⅱ　授業の到達目標

1.日本の民俗文化の本質がとらえられるようになる。
2.学んだ民俗文化と日常生活を比較して考察できるようになる。
3.学んだ知識を日常生活に活かせるようになる。

Ⅲ　授業の概要

テキストや映像資料から、日本の民俗文化の本質がどこにあるのかを考察する。
前期はテキストを中心に進める。また、フィールドに出て瀬名の歴史民俗の観察をする。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1 オリエンテーション	年間授業計画、「民俗文化」の定義、年間個人目標の決定
2 柳田國男と日本民俗学	日本民俗学の父といわれた柳田の理想と現実を知る。
3 口承文芸という領域	言葉による伝承が一定の文化を作り人を育てる。語ることの大切さを知る。
4-5 語りには癒しがある	対人関係の難しさを語りの力で回避する方法を知る。
6 妻と夫、嫁と姑の立場	語りの中からそれぞれの立場を読み取る。
7-8 フィールド調査と発表	瀬名地内を歩いて民俗に触れ、レポートにまとめる。
9 子の立場・親の立場を考える	語りのテキストから学び、自分自身と対比させる。
10 ジェンダーへの目配り	社会で直面するのはジェンダー問題、厳しく見つめる力を付ける。
11 男女差別の根源	男女差別は男女区別でもあることを知る。
12-13 盆行事と先祖供養	遠州に残る盆行事を知り、その背景の農耕文化を考える。
14 祇園祭の歴史と民俗	全国の祇園祭りの本家である京の祇園行事を学ぶ。
15 伊勢神宮と民俗	伊勢神宮の遷宮に関与する人びとの民俗を知る。
16 レポート発表と討論	前期レポート「家の盆、わたしの盆」の発表をする。
17 火の役割と民俗	日本民俗にとっての「火」とは何かを学ぶ。
18 富士山とかぐや姫	かぐや姫物語の発生と富士山信仰を考える。
19 富士山と水	富士火山の成り立ちから水の恵みまでを知る。
20 七五三の歴史と意義	子どもの成長儀礼と子育て文化の基本を知る。
21 京文化と舞妓	舞妓の歴史から京文化を探る
22 紀伊山地の霊場と信仰	修験道と女性信仰について学び、日本の古層信仰を考える。
23 修験道という文化	山に登る宗教者の文化を知る。
24-25 正月行事	正月行事の内容とその意義を考える。
26 歌舞伎の発生	民俗芸能史を「踊り」からとらえる。
27 レポート発表と討論	後期レポート「家の正月、私の正月」の発表をする。
28 秦氏と徐福	徐福伝承から、中国と日本の歴史と民俗を考える。
29 安倍晴明と庶民信仰	安倍晴明の実像を知り、様々な民俗文化との関わりを知る。
30 万歳から漫才へ	民俗芸能史を「漫才」からとらえる。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

昔話から“昔っこ”へ　吉川祐子　岩田書院　2005　9784872944068

Ⅵ　参考書・参考資料

新民俗学を学ぶ　現代を知るために　八木透　昭和堂　2013

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（　）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　）
配点比率(%)　合計 100%		20	50	30	
日本の民俗文化の本質をとらえる		○	○	○	
民俗文化と日常生活の比較		○	○	○	
日常生活に活かす		○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

ニュース、新聞報道（特に文化報道）に気を配る。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

履修上の注意：授業に関係のない私語は慎むこと。
たとえ辞書使用であっても、携帯電話等の授業時間使用は禁止する。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
日中比較文学論		**4**	**国**	**1・2**	**繁原央**

Ⅰ　主題

日本文学に中国文学がどのように影響を与えたか、継子譚と対偶文学を素材に日中比較文学について考える。

Ⅱ　授業の到達目標

1.文学作品の読解ができるようになる(対象への理解の深化)
2.日本文学と中国文学の知識を得ること(対象への関心の深化)
3.日本と中国の文学の比較考察ができること(対象の研究方法に習熟)

Ⅲ　授業の概要

前期は日本と中国の継子譚をとりあげ、関連する作品を比較文学的に考えていく。継子譚は世界的にシンデレラ譚が有名だが、最古のシンデレラ型の記録は中国唐代の「酉陽雑俎」にある。また日本には継子譚が数多く記録されている。それらの背景を考えてみたい。後期は対偶文学を、主として中国の詩と小説から考えてゆく。対偶というとらえ方をすることで、文学の発想の仕方にまで踏み込んで比較考察ができることを示したい。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容	項　目	内　容
1、オリエンテーション	本講義の概要を説明する	15、継子譚とは何か	継子譚のまとめ
2、比較文学とは	阿倍仲麻呂と李白を例に、比較文学の方法を考える	16、対偶文学とは	対偶文学についての概説
		17、中国における対偶的なもの	対聯など
3、神話から説話をみる	イザナキ・イザナミ神話の分布	18、律詩・排律の対偶	近体詩の修辞技法
4、継子譚について	継子話の世界的広がり	19、文心雕龍の理論	対句の仕方の分析
5、平安時代の継子譚	落窪物語を読む	20、聯というとらえ方	詩経や万葉集から対偶表現をみつける
5、室町物語の継子譚	室町物語から継子譚を見つける		
		21、中国の小説について	志怪小説の紹介「桃花源記」を読む
6、神道集の継子譚	「二所権現事」など		
7、日本昔話の継子譚	日本の昔話中の継子譚を探し出す	22、伝奇小説について	「枕中記」を読む
		23、李娃伝を読む	訳文で読みあらすじを知る
8、舜子譚について	舜の物語の紹介		
9、変文について	変文の発見と舜子変文	24、李娃伝の分析	対偶的表現を考える
10、中国の民間故事	中国民間故事(神話、伝説、昔話)研究について	25、杜子春伝を読む	あらすじを知る
		26、杜子春伝の分析	対偶的発想を考える
11、中国民間故事中の継子譚	親孝行譚と継子譚の関係	27、長恨歌を読む	長恨歌の本文と訳から内容を知る
12、シッディ・クール第五話	モンゴルの語り物の中の継子譚		
		28、長恨歌の分析	対偶的な思弁性に注目
13、七賢人物語	千一夜物語の源流の発端	29、三夢記を読む	三つの夢の話の思弁性
14、枠物語とは何か	アジアに広がる連環譚	30、前赤壁賦を読む	思想的対偶表現を知る

Ⅴ　使用テキスト・教材等

対偶文学論	繁原　央	汲古書院	9784762995590

Ⅵ　参考書・参考資料

日本昔話大成	関　敬吾	角川書店	
日本昔話通観	稲田浩二他	同朋舎	
シッディ・クール	西脇隆夫	溪水社	2013

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（　　）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100		30	50	20	
文学作品の読解		○	○	○	
作品の知識		○	○		
比較考察内容			○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

予習はテキストを読んでくること。復習は講義と関連する作品を調べること。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
文化人類学		**4**	**国**	**1・2**	**繁原央**

Ⅰ　主題

文化人類学の研究成果を基に人間の文化的側面について学ぶ。今年は「血縁と婚姻」を主たるテーマとする。

Ⅱ　授業の到達目標

1.文化人類学の研究方法(フィールドワーク)を理解できる(対象への理解の深化)
2.人間の文化について学び、人類文化とは何か知ること(対象への関心の深化)
3.世界の民族の多面的な文化を知り、人の生き方について考察できる(新しいことへの挑戦力)

Ⅲ　授業の概要

文化人類学の概略を基本に人類の文化現象を紹介する。人間は血のつながりをなぜ重んじるのか、また婚姻はどのように行われてきたか。これらに関する現在日本の変化は激しいものがあるが、伝統的なあり方を知ることによって、これからの血縁と婚姻、あるいは人間関係について考える素材を提供したい。具体的な例は中国を中心とするアジアが多くなる。

Ⅳ　授業計画と内容

項目	内容	項目	内容
1、オリエンテーション	文化について	16、歴史人口学	人口から歴史を考える
2、文化について 1、農耕	河姆渡遺跡の紹介	17、婚姻	結婚の意味を人類学はどう考えるか
3、文化について 2、遊牧	モンゴルの遊牧生活の紹介		
4、文化人類学の歴史 1	ダーウィンの進化論の影響	18、歌垣	男女の出会いの場として
5、文化人類学の歴史 2	フレーザーの理論「金枝篇」	19、特殊な婚姻 1	優先婚について
6、文化人類学の方法 1	フィールドワークの方法について	20、特殊な婚姻 2	トン族のイトコ婚
		21、婚姻理論	レヴィ-ストロース「親族の基本構造」を読む
7、文化人類学の方法2	参与観察の理論		
8、マリノフスキーの著書	「西太平洋の遠洋航海者」のフレーザーの序文を読む	22、贈与論	ポトラッチなど
		23、死後結婚1	死んだ人を結婚させるということ
9、クラ交換について	マリノフスキーを読む		
10、レヴィ・ストロース	構造主義について	24、死後結婚2	韓国の例を紹介
11、家族とは	人類学上から見た家族	25、葬制の諸相	さまざまな葬式の仕方と葬式の変容
12、血縁について	血縁を文化人類学はどう捉えるか		
		26、両墓制	二つの墓のある村
13、父系	東アジアにおける系譜の意味―孔家族譜を例に	27、祖霊信仰	祖先を祀る意味
		28、風水	地理学との接点
14、母系	母系社会とはどういうものか―モソ人の生活	29、アミニズムとシャーマニズム	原始的宗教の存在
		30、血縁を超えて	成人式、秘密結社、擬制的人間関係
15、モソ再訪	平成 26 年の訪問時のこと		

Ⅴ　使用テキスト・教材等

よくわかる文化人類学　第 2 版　綾部恒男他編　ミネルヴァ書房　2010　9784623056965

Ⅵ　参考書・参考資料

文化人類学を学ぶ人のために　米山俊直他　世界思想社
文化人類学の名著 50　綾部恒雄編　平凡社
文化人類学事典　日本文化人類学会　丸善

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

学習項目＼成績評価方法	試験(筆記試験)	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他( )
配点比率(%)　合計 100	50	30		20	
文化人類学についての理解	○	○		○	
文化についての考察	○				
民族文化についての知識	○	○			

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

予習はテキストの該当箇所を読んでくること。復習は学習した専門用語を覚え、関連する書を読むこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
国語科教育研究		**4**	**国**	**1**	**大塚浩**

Ⅰ　主題

この授業では、中等学校教育における国語科の授業を行うには、どのような理論研究が必要となるのか、また、どのような指導法が必要となるのかについて考察する。（中学校国語一種免許・必修科目）

Ⅱ　授業の到達目標

1.国語科教育学の構造を理解し、「国語科」の指導が出来るようになる。
2.国語教科書の構成について学び、国語教材の研究・考察ができる。
3.さらに、国語教材研究の知識を利用して、国語授業研究へと応用できるようになる。

Ⅲ　授業の概要

この授業は、国語科教育研究について理論と実践の両面から考究する。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1- 2. 言語とは	イントロダクション＋言語について
3- 4. 国語教育学の構造	国語教育学の構造について
5- 6. 言語指導	国語科における言語指導について
7- 8. 国語教科書教材論Ⅰ	国語教科書教材の基礎論について
9-10. 作家作品論Ⅰ	作家作品論について
11-12. 国語教材研究論Ⅰ	国語教材研究の基礎について
13-14. 国語科教育実践論Ⅰ	国語科教育実践論について
15-16. 国語科教育指導論Ⅰ	国語科教育指導論について
17-18. 国語教科書教材論Ⅱ	国語教科書教材論・第Ⅱ段階
19-20. 作家作品論Ⅱ	作家作品論・第2段階
21-22. 国語教材研究論Ⅱ	国語教材研究論・第Ⅱ段階
23-24. 国語科教育実践論Ⅱ	国語科教育実践論・第Ⅱ段階
25-26. 国語科教育指導論Ⅱ	国語科教育指導論・第Ⅱ段階
27-28. 国語科教育授業論Ⅰ	国語科教育授業論について
29-30. 国語科教育授業論Ⅱ	国語科教育授業論・第Ⅱ段階
31.　試験	

Ⅴ　使用テキスト・教材等

講義において、適宜指示する。

Ⅵ　参考書・参考資料

講義において、適宜指示する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 ／ 学習項目	試験（筆記試験）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	50	15	15	20	
国語科教育学の構造の理解	○			○	
国語教材の研究及び実践、発表	○	○	○	○	
国語科の実践授業、授業研究への応用	○	○	○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

講義で使用する文学作品を、事前に読んでおくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業に関係のない私語は絶対にしないこと、従わない場合には退席を命じる。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
修了論文	**4**		**国**	**2**	**中村国男**

Ⅰ　主題
各自が自身の興味に即してテーマを設定し、説得力ある答えを発見していく。

Ⅱ　授業の到達目標
1.対象とする作品を、丁寧に読み込むことができる。(文学への関心の深化)
2.研究史を把握し、幅広く論文・資料を利用できる。(文学研究の方法に習熟)
3.主張に向け、筋道を立てて論述することができる。(文章の論理的構成力)

Ⅲ　授業の概要
4 月末に本題目を決定。前期末に論文の構成・あらすじを確定する。夏休み中に論文を作成する。枚数は四百字詰め原稿用紙換算で 30 枚以上。9 月上旬に提出。口頭試問を実施する。一斉授業は行わず、原則として自力で問題を解決していくこととし、進行の節目に合わせて面接指導を行う。さらに各自の感じた課題に応じて適宜個人指導を実施する。

Ⅳ　授業計画と内容

項目	内容
1.　研究テーマの決定	1 年次に決めたものを再確認
2.　題目の決定	正式の文言として確定する
3～ 6.　論文の構成・あらすじの確定	仮説、目次、要旨を作成
7～15.　下書き作成	実践　適宜面接指導を実施
16～17.　論文提出	目次を付け、装丁を確認
18.　口頭試問	不十分であった点をチェック
19～30.　修了論文発表会へ	学位授与へ向けて

Ⅴ　使用テキスト・教材等
各自のテーマに応じて用意すること

Ⅵ　参考書・参考資料
必要に応じ指示する

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験 (　　)	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他 (　　)
配点比率(%)　合計 100			80	20	
文学への関心の深化			○	○	
文学研究の方法に習熟			○		
文章の論理的構成力			○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
自力での地道な取り組みと同時に、面接前には進捗状況を整理しておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
教員との相談を密にすること。

授　業　科　目　名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担　当　教　員
修了論文	**4**		**国**	**2**	**瀬戸宏太**

Ⅰ　主題

各自が自身の興味に即してテーマを設定し、説得力のある答えを発見していく。

Ⅱ　授業の到達目標

1.対象とする作品を、丁寧に読み込むことができる。（対象への関心の深化）
2.研究史を把握し、幅広く論文・資料を利用できる。（対象の研究方法に習熟）
3.主張に向け、筋道を立てて論述することができる。（自分の考えを実証する力）

Ⅲ　授業の概要

原則として自力で問題を解決していくわけだが、指導は、その進行の節目にあわせて、次の三つを基本に据える。すなわち、テーマ決定前の作品読解の程度のチェック、先行論文など当該テーマに関する研究史把握のサポート、および論文提出後の口頭試問である。中でも口頭試問は緊張感を持って臨み、積極的に批判を受け、これに対する答えを探すことで自説に磨きをかけ、修了論文発表会へとつなげてほしいと思う。

Ⅳ　授業計画と内容

目安として期待される進行状況を以下に示す。なお、1～3 については、既に一年次から取り組んでいることを前提とする。

	項　目	内　容
1.	扱う作品の決定・再読	自分が関心を持てる作品を見つけ、読み直す。
2.	テーマの決定	どのように論じていくのか言葉にする。
3.	研究史の把握	テーマに関して既に論じられていることを学ぶ。
4-7.	自分の考え方の長所	自分が新たに言えることは何かを見定める。
8-15.	下書きと推敲	説得力を持たせるための試行錯誤。
16-17.	論文提出	自分の論文をしっかり把握し、要約を付ける。
18.	口頭試問	不十分であった点をチェックする。
19-30.	修了論文発表会へ	学位授与へ向けて

Ⅴ　使用テキスト・教材等

各自のテーマに即して用意すること。

Ⅵ　参考書・参考資料

新編日本古典文学全集	小学館
新日本古典文学大系	岩波書店
新潮日本古典文学集成	新潮社

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（　　）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100		20	50	30	
対象への関心の深化			○	○	
対象の研究方法に習熟		○	○	○	
自分の考えを実証する力			○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

自力での地道な取り組みと同時に、面接前には進捗状況を整理しておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

論文の出来が不本意だった場合は、提出後の面接で補うこと。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
修了論文	**4**		**国**	**2**	**小野田貴夫**

Ⅰ　主題
専攻科における学修の成果を論文にまとめる。

Ⅱ　授業の到達目標
1.自身の関心に即して先行研究を踏まえながらテーマを設定する。
2.テーマに応じた資料収集、調査、読解、分析等の一連の研究作業を行う。
3.研究の成果を論文の形式にそって書く。

Ⅲ　授業の概要
言語学、社会言語学、日本語学、こどもの文学、宮澤賢治等に関するテーマを扱い、テーマの設定から論文の完成までの手順を解説、指導する。

Ⅳ　授業計画と内容

項目	内容
1－2. 卒業論文の見直し	不足の確認と改善の方法
3－4.「はじめに(テーマの設定)」	関心と先行研究との関係について
5－6.「調査方法・結果と考察・まとめ」	論文作成の具体的な手順について
7－8. テーマの設定	問題設定の可能性について
9－10. 主題・問題設定とは	先行研究を踏まえた問題の立て方
11－12. 先行研究との関係	先行研究の調べ方、載せ方
13－14. 調査方法	様々な調べ方・手段について
15－16. 文献調査について	文献、論文の検索／文献による調査
17－18. インタビュー調査、質問紙調査	面接の方法／質問紙の作成方法
19－20. 結果と考察	事実の扱い方と関連付け
21－22. 事実の関連付け(体系化)	事実のまとめかた・示し方
23－24. 分析方法	印象と客観的な根拠の示し方(分析)
25－26. まとめ(論文の完成)	全体的な構成と確認
27－28. 校正と製本	製本する
29－30. 口頭発表	論文の内容を要約し、発表する

Ⅴ　使用テキスト・教材等
新版　論文の教室―　戸田山　和久　NHK 出版　2012　9784140911945
レポートから卒論まで

Ⅵ　参考書・参考資料
この 1 冊できちんと書ける!　石黒　圭　日本実業出版社　2012　9784534049278
論文・レポートの基本
レポート・論文の書き方入門　河野　哲也　慶應義塾大学出版会　2002　9784766409697

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験 ( )	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他 ( )
配点比率(%)　合計 100		15	75	10	
テーマが設定できる		○		○	
自身の研究作業及び進捗状況を解説できる		○		○	
論文が作成できる			○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
各回に配布する資料の再読と課題の実施。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）